

六月号塾だより

編集

山口将志
大崎拓己

矢田力椰

今月号のトピックス

- ・一学期期末テスト対策
- ・受験勉強について
- ・三峰神社の登山
- ・本の紹介コーナー

1学期期末テスト対策

●6月2日（月）から**期末テスト対策期間**がスタートする予定です。（大東西中だけテストの日程が異なります。）

生徒さんにお配りするスケジュールを確認しておいてください。

●6月21日（土）に12時間耐久DAYを行う予定です。

詳細は後日お配りする申込用紙をご覧ください。

●中間テストがなかった学校の生徒さんは範囲がかなり広がります。計画的に学習を進めていきましょう！

受験勉強について

☆7月1日（火）から、中3生の受験勉強を開始します。

☆平日は毎日3時間30分の勉強をしていただきます。勉強する科目は、受講されていない教科でもかまいません。学校の宿題や、英検などの勉強でも大丈夫です。

☆授業がある日は、授業の時間を含めて3時間30分の勉強をしていただきます。例えば、月曜日に英語か数学の授業がある生徒の場合、授業の1時間30分に加えて2時間の勉強をしていただきます。

☆テスト勉強と同じく、中3生1人1人に席をご用意いたします。ワークや教科書を席に置いておくことも可能です。

☆サミングアップという教材を使用しますので、進級時、または入塾時にお配りしたサミングアップをお持ちください。

6月22日(日)実施の北辰テスト申込について

- ・申し込み期限：5月30日（金）
- ・中学3年生と2年生が対象です！

☆詳細は生徒さんにお渡しした案内をご覧ください。
☆期末テストと重なりますので、お気を付けください。

三峰神社の登山

個人的な話ですが、今年のゴールデンウィークに秩父市の山奥にある三峰神社を参拝しました。

南大塚駅から所沢駅へ電車で行き、そこで乗り換えて飯能駅へ、さらに乗り換えて西武秩父駅へ行き、そこからもう一度乗り換えて三峰口という駅に向かいました。そこから徒歩で三峰神社を目指します。

地図で調べるとわかりますが、秩父は山に囲まれており、三峰神社はそこからさらに西の山奥にあります。標高は1000m程度だそうです。

グーグルマップで調べると三峰口駅から三峰神社までは9kmほど。徒歩でかかる時間は2時間30分と出てきます。歩きなれている人にとって9kmはあまり長い距離ではないので大して労力はかからないだろうと考えていたのが大きな間違いでした。

駅から1時間程度は舗装された道路を歩きます。そこから山道に入りますが、その山道がものすごく大変でした。勾配は急で足元は悪く、途中、橋が流されている場所がありました。

秩父の市街地から神社までバスが出ており、バスで上まで登って降りて来る方とすれ違ったのですが、下山者とすれ違うたびに「あとどれくらいですか？」と尋ねました。

ずっと疲れっぱなしというわけではありません。途中、休憩できる地点もいくつか設けられていました。

また、山登りの途中、三頭のシカと出会いました。登山道を堂々と横切っていて、人間をあまり警戒していない様子でした。

急な山道を登って神社に到着すると、山間の景色が見渡せる建物がありました。その日は晴れていたもので、山の新緑と青空の対比が綺麗に映えていました。これだけ困難な山道を登って参拝するのですから、神のご加護が感じられるというのも頷けます。

山頂で秩父名物のわらじカツ丼を食べ、バスで山を下りました。また機会があれば、登山に挑戦したいです。（大崎）

本の紹介コーナー

國分功一郎『中動態の世界』

中学2年生の三学期頃に、英語で「受動態」という言葉が登場します。

受動態とはいわゆる、「～される」という言葉の形のことで「父によってカレーが作られる」「私は他人から殴られる」といった受け身の文章で使われます。

対して「父がカレーを作る」「私は他人を殴る」といったように、受け身ではない形になっている言葉の形を「能動態」と言います。受動態が他人から何かをされる受け身の形だったのに対し、能動態はその行為の主が、自分から意志を持って何かを行動するときに使われます。例えば、誰かから言われなくとも進んで勉強をしたら「あの人は能動的に学習しているなあ」という評価を受けたりします。

しかし、受け身の受動と自らの意志を持って行動する能動だけでは、人間の行動を表現できないことがあります。

例えば、不良にからまれてお金を差し出したとします。外部の圧力を受けた点に注目すれば確かに受動に見えますが、自分の手でお金を掴み、それを相手に渡した点に着目すれば能動に見えます。

謝罪会見でも同じことが言えます。何かをしでかして謝らなければいけなくなった場合、外からの圧力で謝るのか、自発的な心の動きから謝るのか明瞭に区別をつけることは難しいです。

國分功一郎『中動態の世界』は能動、受動の言葉だけでは表現できない人間の領域に踏み込んだ本です。能動態や受動態ではない「中動態」という形態がかつてのギリシア語などに存在し、その言語の機能をヒントに人間の意志などをとらえ直します。

この本を書くきっかけには、アルコール依存症を持つ人たちとの出会いがあったそうです。依存症は本人の意志があれば簡単にやめられるというわけではないそうで、ケアのためには「意志」という枠組みで物事を考えるのではダメなのではないか、という問題意識が本書には流れています。

文法の成立や、そのたどってきた歴史など、少し難しい議論も含まれていますが、読むときっと新しい視座を得られます。ぜひお手にとってみてはいかがでしょうか。(大崎)